総合医学会報告

2023年シンポジウム：ひと目で分かるNHOによる臨床研究の最新成果

NHOネットワーク共同研究感覚器グループよりの報告

角田晃一†

第77回国立病院総合医学会
2023年10月20日　於　広島

IRYO　Vol. 78　No. 5（277－280）2024

要旨　NHO感覚器臨床研究グループは，NHO東京医療センター臨床研究センターを中心に国内NHO病院のみならず，国内・外の大学，研究施設と共同で行われているものが多い．枯渇する研究費に対応すべく，NHO臨床研究費のみならず，AMED，科研費，JSTなど民間を含め多くの研究費を獲得する必要がある．得られた研究成果は，NHO病院の恩恵を活かして臨床に直ちに有効に還元している．最近10年間でも，多くのNHO感覚器研究が研究終了後，着実に原著論文として英文のインパクトファクターの高い海外 Top Journal に掲載されている．視覚，聴覚平衡，など感覚器とその中枢である脳を中心とした研究は，人間の社会生活，音声言語コミュニケーションに必須であり，さらに大規模な症例・ゲノム情報データベースなども構築している．これら最新の研究成果の多くは，新聞やテレビなどマスコミに取り上げられ，効率よく国民，社会に啓発でき，ガイドラインなどに反映されている．

キーワード　NHO臨床研究，感覚器，視覚，聴覚平衡，音声言語，症例・ゲノム情報データベース

はじめに

NHOの眼科・耳鼻咽喉科を中心とした臨床研究可能な感覚器ネットワーク病院と，全国のNHO協力病院は，研究内容により，内科，脳神経内科，脳神経外科，リハビリテーション科等臨床各科と適宜参加の協力を仰ぎ，大学病院や関連施設などにも研究に協力していただき，研究協力施設は全国，海外に広がるネットワークを形成している．NHO感覚器グループ会議は年２回春（３月）と秋（10月）に，そのほか適宜WEBにて開催し，市民への啓発を鑑み，年に１回は感覚器シンポジウムを市民公開講座として開催している．さらに感覚器グループを中心に国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED），科研費，国立研究開発法人科学技術振興機構（JST），他民間を含め多くの研究費を獲得し，得られた研究成果は，臨床にただちに還元している，これはNHO病院の恩恵でもある．この10年間でも，多くのNHO感覚器研究が研究終了後，着実に原著論文として英文のインパクトファクターの高い Top Journal[1-12] に掲載されている．さらにそれらから派生した英文論文もその数倍あり，新聞やテレビなどマスコミに

国立病院機構東京医療センター　臨床研究センター　人工臓器・機器開発研究部長　†医師
著者連絡先：角田晃一　臨床研究センター　人工臓器・機器開発研究部長
〒158-8902　東京都目黒区東が丘２－５－１
e-mail：koichi.tsunoda@kankakuki.jp
（2024年１月18日受付　2024年８月２日受理）
Report from Sensory Organs Group
Koichi Tsunoda　NHO Tokyo Medical Center
（Received Jan. 18, 2024, Accepted Aug. 2, 2024）
Key Words：NHO clinical study, sensory organs, vision, hearing and balance, logopedics and phoniatrics, genome phenotype database